



特集 special edition

林業で地方創生

熊本県阿蘇地域

阿蘇市、南小国町、小国町、産山村、高森町、南阿蘇村、山都町

地域の宝である「神々が宿る木

『阿蘇南郷檜(あそなんごうひ)』の
ブランド化」への取組を紹介します。



阿蘇五岳大観峰から
阿蘇南郷檜の林



阿蘇南郷檜記念市



阿蘇草原

平成25年5月に「阿蘇の草原の維持と持続的農業」が世界農業遺産認定

『世界の阿蘇』から 木材のブランド化

〜地域の宝が日本の宝〜

ヒノキの挿し木品種である「阿蘇南郷檜」のブランド化に取り組むこの阿蘇地域は、熊本県の北東部に位置し、面積は約1,200km²で県土の約15%を占め、標高400〜800mの高原地帯です。中央部には現在も噴煙を上げている中岳を含む阿蘇五岳がそびえ立ち、その周囲に外輪山をめぐらし、世界最大級のカルデラ地帯を形成しています。

本地域では、広大な原野、草地という土地条件や夏季の冷涼な気象条件を活かして畜産、米、野菜を大きな柱とした多様な農業生産が行われており、また、豊かな森林資源を活かした林業、観光関連産業も盛んな地域です。

そのため本地域は、平成25年5月に「阿蘇の草原の維持と持続的農業」が世界農業遺産に認定、さらに雄大かつ多様な火山地形・地質が広がりを持つことから、平成26年9月には世界ジオパークにも認定され、今後は世界文化遺産の登録を目指すなど名実ともに『世界の阿蘇』となっています。

なお、中岳が平成26年11月に噴火し今も火山活動を続けていますが、観

光などには何ら支障がなく安全ですの
で「安心して来てください。」

プレミアム材 「阿蘇南郷檜」とは

〜全国唯一のヒノキ挿し木品種〜

阿蘇地域の高森阿蘇神社をはじめ多くの神社に祀られ、檜の御神木の分身（クローン）であるナンゴウヒは、全国唯一の在来挿し木品種で、約260年前の宝永年間あたりから直挿しによつて代々伝えられたものです。分布は阿蘇地域一帯に限られた高品質プレミアム材



高森阿蘇神社母樹



母樹として親しまれるナンゴウヒ

アム材です。

しかし、枝打ち等の育成が難しく、林家の減少や高齢化により、高品質な林分の減少が懸念されてきました。そこで、古くより地域の宝として育てられたナンゴウヒを『阿蘇南郷檜』としてブランド化し材価を高めることで、林業収入を向上させ、後継者の確保・地域林業の活性化のための活動を平成26年度から開始しました。



一般的なヒノキ(幹に根曲りやトックリ病が発生)

ナンゴウヒ(幹が通直で円柱形に近い)



ナンゴウヒの特徴

- ①挿し木品種であり品質にバラツキが少ない。
- ②幹が通直で円柱形に近く、採材時に直材の割合が高く、歩留りも高い。
(一般的なヒノキ：幹に根曲りやトックリ病が発生)／左写真で比較
- ③高齢になっても成長が衰えず、花粉を着けにくい。
- ④適切に手入れされたナンゴウヒは、化粧材として利用価値が高い。

「阿蘇南郷檜」の ブランド化への歩み

地域の林業活性化を目指す

阿蘇南郷檜のブランド化への歩みは、当協議会設立約30年前の昭和57年にさかのぼります。後世に郷土の宝を引き継ぐため、組織的な調査研究を実施することを目的として熱心な林家34名により「阿蘇郡ナンゴウヒ研究会」として活動した記録が残っており、今日のブランド化推進に向けた土台が作られました。林業不振の影響を受け、平成18年度のナンゴウヒ研究会を最後に活動は下火となっていました。

平成26年度に、このままではせつかくの地域の宝が活かせないとの危機感から、ナンゴウヒ研究会発足当時のメンバーを中心に、更には阿蘇地域の市町村、熊本県や森林組合等の関係機関が参加し、草村高森町長を会長とする『阿蘇南郷檜ブランド化推進協議会』が設立されました。それ以降は関係者が一致団結して横軸連携の強化による事業の企画立案・実行にスピード感を持って取り組んでいます。

当協議会の活動は、度々地方紙に取り上げられ、熊本県内にその活動が発信されていますが、その事で林家の方々も自分達のこれまでの取組に大い

に自信を深めるとともに、林業生産活動に対するモチベーションが非常に高まっており、定期的に開催する幹事会では、その注目度から幹事林家からの将来を見据えた阿蘇南郷檜のブランド化を通じた林業振興策の提案や、林家には切実な問題である有害鳥獣(鹿)対策まで幅広く活発に意見が交わされるなど、今後のブランド化推進に向けての事業展開が期待されています。

なお、当協議会のブランド化、育林技術の継承等の取組には、熊本県が平成26年度から「地域ブランドの森林づくり推進事業(県単独)」を創設し、支援を行っています。

「阿蘇南郷檜ブランド化 推進協議会」の概要

- ・設立：平成26年5月26日
- ・会長：草村大成(高森町町長)
- ・構成員数：41名(林家、阿蘇森林組合、高森町林業研究クラブ、阿蘇地域の1市4町2村(阿蘇市、南小国町、小国町、産山村、高森町、南阿蘇村、山都町)、オブザーバー(熊本県))



やる気マンマンの草村会長

最高値50万円／m³！

木材市場への初テスト出品！

昨年10月には、熊本県内外から多数の購入者が参加する熊本木材(株)熊

本市)の「くまもと秋の銘木&選木市」に、阿蘇南郷檜の知名度向上と新たな販路拡大を目的として、協議会会員のうち8名が育てたナンゴウヒ原木181m³を初めてテスト出品しました。市場では概ね高値取引となり、平均単価は4.1万円／m³(熊本県における一般ヒノキ1.9万円／m³程度)、最高値は50万円／m³(100年生、末口50cm、L=6m)と、PR効果に加えて会員のナンゴウヒ育成意欲の高揚につながる結果となりました。

また、落札された阿蘇南郷檜は、寺社仏閣の建替え用材や大阪のだんじり祭で使用する神輿の担ぎ棒などに加工されるとのこと、購入した製材業者にアンケート調査を実施したところ、評価事項や要望、要改善事項について意見が寄せられ、今後のブランド化推



記念市のセリ風景

また、落札された阿蘇南郷檜は、寺社仏閣の建替え用材や大阪のだんじり祭で使用する神輿の担ぎ棒などに加工されるとのこと、購入した製材業者にアンケート調査を実施したところ、評価事項や要望、要改善事項について意見が寄せられ、今後のブランド化推



記念市にかけつけた協議会メンバー



記念市の状況

進に向けた需要者の貴重な意見を把握することができました。

本年もまた10月に開催された同市に154m³をテスト出品実施し、平均単価3.8万円／m³、最高値48万円／m³と前年値並みの評価を得ることができました。今後も一定量を継続して出品することにより、市場での信頼獲得を目指して取り組んでいきます。

育成技術の継承

研修会の開催・育成基準の策定

ナンゴウヒは適時適正に枝打ちや間伐を行わないと、幹が通直完満で円柱形に近く木材としての特有の固さを持つといった特性が現れず、高品質材としての価値が著しく低下することか



講師の指導林家の栗屋克範さん



育成研修を終えて



枝打研修の風景

ら、平成26年12月にナンゴウヒを育成する指導林家3名を講師とし、テスト出品の結果を踏まえて生産目標に応じた枝打ち方法についての研修会を実際にナンゴウヒの林分において会員34名の参加により実施しました。平成27年度においても、多数の会員からの要望により現地研修の開催、また、ブランド材として阿蘇南郷檜を育成していくため、どの時期に何回、枝打ちや間伐などを実施していくかを定める「阿蘇南郷檜育成基準(仮称)」の策定も進めており、阿蘇南郷檜を生産するための育成技術を継承する環境づくりにも努めています。

地域内でのナンゴウヒ苗木の生産

〜苗木の安定生産を目指す〜

『阿蘇南郷檜』のブランド化を進め、次世代につなぐことのできる地域の宝にしていくためには、需要を伸ばす出口対策と着実に適地に植林し資源を増やしていくための苗木の安定供給対策が重要になってきます。

近年、九州地方ではバイオマス利用や輸出など新たな木材需要の伸びに伴い皆伐が増加し、その後の再造林において苗木が不足するという地域も発生している状況ですが、当地域には力強

い苗木生産者もいらつしやいます。

その方は、羽田樹苗園の羽田さんです。熊本県樹苗協同組合理事長として県内の山林種苗生産・販売のリーダー的役割を果たし、また、自らも阿蘇南郷檜の山も所有されている林家でもあります。祖父の代から三代にわたり、ナンゴウヒの挿し木苗づくりに取り組まれ、ナンゴウヒの山を増やされています。羽田さんは、「ナンゴウヒの山に行くと、幹曲りがほとんどないことから、みんな気を付けの姿勢をとっているようで、私自身も気持ちがつつきりすることがよくある。」と笑顔で話されます。

この度、羽田さんは、公益財団法人大日本山林会が主催する平成27年度全国林業経営推奨行事において、「農林水産大臣賞」を受賞されました。おめでとうございます。



阿蘇南郷檜



山行きを待つナンゴウヒ苗



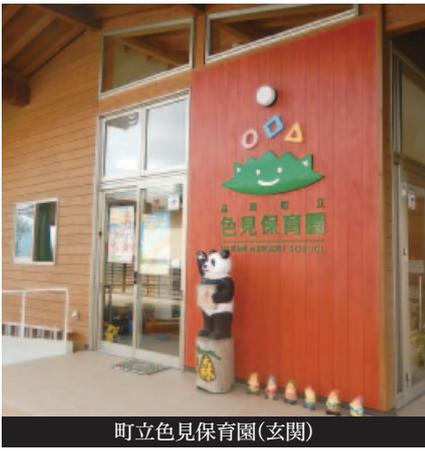
苗木を生産する羽田誠次さん

子供達にこそ、地域の宝を見て・触れてもらう！

**公共木造施設に活用…
町立保育園、県立高校**

地域の子供達の学び舎である学校や保育園では、地域の木材をふんだんに使うことにより、阿蘇地域の基幹産業である林業の活性化に寄与するとともに、子供達が落ち着いた毎日を過ごすことのできる環境を提供しています。

そして、地域の木材の一つとして、このプレミアムな『阿蘇南郷檜』についてもシンボリックに利用することにより、同じく地域の宝である子供達に見て・触れてもらうことを心掛け、高森町立色見保育園(平成27年3月完成)及び熊本県立高森高校(平成27年12月完成)が建設されたところです。



町立色見保育園(玄関)



阿蘇南郷檜の集成材柱



県立高森高校(玄関)



保育園のシンボルの柱に！



県立高森高校(全景)

関係者でスクラム

活動の効果

林業の低迷が久しく生業としての林業経営が立ち行かない厳しい現状において、また、低価格で大量生産・安定供給が求められている木材流通の現状において、目の前にある地域資源に付加価値を付け、いかに活かし磨き上げ、次世代につなげていくか、が課題となっています。その中で本協議会の設立による諸活動は、林家のみならず、山林所有者や地域住民の、地域資源をもう一度見つめ直し、地域林業復活の必要性を認識するための契機となっています。

また、阿蘇地域の林家や林業関係機関、行政関係者がスクラムを組み横軸の連携体制を構築したことにより、需



丸太購入者にはアロマオイル進呈

要拡大やブランド化推進の諸活動に対してスピード感をもって継続的に取り組むことが可能となり、阿蘇地域のみならず、熊本県下の木材市場や製材企業の注目度の向上や、購買意欲の醸成に寄与しています。

次世代へつなぐ地域の宝に！

今後の展開方向

最後に『阿蘇南郷檜』ブランド化の今後の展開方向ですが、現在、原木の流通と合わせ、間伐時に生じる切り株や、枝打ちで生じる枝葉から抽出する精油（アロマオイル）の商品化や御神木「クローン」の特性を活かした阿蘇南郷檜材「神棚」などの製作が企画されています。

また、製材業や工務店等の需要者に対して生産現場（ナングウヒ林分）の見学会を開催し、特に神社仏閣の建築等に適した材としてのPRも含め、認知度の向上と利用促進に向けた継続性のある取組を実施し、多方面の目線・手法によるブランド化を推進していきます。

このように『阿蘇南郷檜』としてブランド化し材価を高めることで、林業収入を向上させ、後継者の確保・地域林業の活性化を図り、次世代につなぐことのできる地域の宝に磨き上がっていくことが期待されます。

阿蘇五岳

(お問合せ先)

- 阿蘇南郷檜ブランド化推進協議会事務局(高森町役場農林政策課農林振興係内)
- 熊本県農林水産部森林局森林整備課

安心して阿蘇へお越しください!

